

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2371301249
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社
事業所名	守山ケアハートガーデン グループホームつづみの丘
訪問調査日	平成21年1月9日
評価確定日	平成21年2月7日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
**[取り組みの事実]**  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
**[取り組みを期待したい項目]**  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
**[取り組みを期待したい内容]**  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月9日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2371301249		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	守山ケアハートガーデン グループホームつづみの丘		
所在地	名古屋市守山区百合が丘3005番地 (電話) 052-739-2017		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成21年1月9日	評価確定日	平成21年2月7日

## 【情報提供票より】(平成20年12月22日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	18年3月16日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	20 人	常勤 16人, 非常勤 4人, 常勤換算 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000 円	その他の経費(月額)	32,000 円	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 300,000 円	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	180 円	昼食	330 円
	夕食	480 円	おやつ	110 円
	または1日当たり		1,100 円	

### (4) 利用者の概要(平成20年12月22日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	9名	要介護2	3名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.4歳	最低	71歳	最高	88歳
協力医療機関名	旭労災病院・名古屋徳洲会総合病院・愛知クリニック・前川歯科				

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの建物は入居者が暮らしやすいよう工夫され、駐車場から建物内までバリアフリーになっている。洗面台の壁は大きな鏡になっており、死角部分を少なくしたり、居室入り口のドアはそれぞれ色分けされ、入居者が迷うことのないよう配慮されている。理念である「笑顔が絶えない明るいホーム」を職員は十分理解し、日々のケアにも活かされている。また、施設長の的確な指導と配慮に職員が信頼を寄せ、ホームの明るい雰囲気と整理整頓された清潔さに表れている。ホームが「子ども110番の家」に指定され駐車場で、ホームの行事を行っている、地域の子どもたちが自然に参加するなど、地域住民の方々に関われたホーム創りに取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	課題についてカンファレンスで話し合い、理念の作成には全職員で取り組み、重度化及び終末期の方針は、看取りの経験を活かして指針を作成している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員は評価をサービスの質の向上に活かそうと積極的に取り組み、自己評価は全職員が行ない、日々の業務を振り返る機会としている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 会議はおおむね3カ月毎に開催され、ホームの現状や活動内容、運営状況などの報告と行事予定や外部評価などが討議されている。メンバーは自治会々長、保育園々長、施設長、副施設長からなり、発言も多く提言や助言、協力を得てホーム運営に反映させている。会議で出された課題については、3グループホーム合同の定例会や、ホームのカンファレンスで全職員と話し合い、サービスに反映するよう努めている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) ホームと家族、入居者のコミュニケーションが大事にされ、良好な関係が持たれている。家族の来訪が多く、その際、入居者の暮らしぶりや健康状態の他、ケース記録やケアプラン、こづかい帳を見てもらっている。なお、対応は施設長、副施設長、ユニットリーダーのいずれかが行い、入居者、家族の思い、要望、相談を受けるようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、ホーム便りの「つづみの丘新聞」を発行し、自治会々長の協力を得て他地区にも回覧してもらっており、2月にも発行予定となっている。自治会の行事には入居者と一緒に積極的に参加し、保育園や小学校との交流を行うなど、地域との関わりを深めホームのことを知ってもらい、協力を得る関係が構築されている。今後、ホーム行事へ参加を呼びかけ、地域との交流を深めたいと考えている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念の他、ホーム独自に理念のサブタイトルとして「笑顔が絶えない明るいホーム」「地域住民の方々が開かれたホーム」を昨年度、職員全員で話し合いながら作成した。笑顔を生み出すコミュニケーションを大切に、地域に密着することにより、住民の理解を得て信頼され、入居者が地域の中で、その人らしい生活ができるよう支援していくことを、ホーム運営の基本にしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念と共に、ホーム独自の理念を玄関ホールや、事務所の目に付きやすいところに掲示している。ホーム独自の理念づくりに全職員が参加したことから、施設長、副施設長及び職員は理念の真意を理解し、理念に基づいたケアに取り組んでいる。毎月行われる全職員参加のカンファレンスでは、ケアが理念に基づいているか確認し、意識の統一を図っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、ホーム便りを地区内はもちろん、自治会長の協力を得て、他地区にも回覧してもらっている。自治会の行事には可能な限り、入居者と一緒に参加し交流を深めている。こうした取り組みよって、地域住民から徘徊者に関する問い合わせがくる等、ホームのことを知ってもらい、協力を得られる関係が構築されている。「子ども110番の家」の指定を受け、子ども達の立ち寄りもある。今後、ホーム行事への住民参加を呼びかけ、地域との交流を一層深めたいと考えている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は積極的に評価に取り組み、意義やねらいを理解している。前回の課題についてカンファレンスで話し合い、優先順位をつけて改善に取り組んでいる。自己評価は日常の業務を振り返る良い機会として捉え、施設長は職員に思っていること、感じていることをそのまま記載するよう伝えている。施設長は、職員の思いや考えを知ることができ、職員の意見を大事にし、運営に反映させたいと考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>多種多様なメンバーで構成され、3カ月毎に開催している。議題はホームの現状、活動報告、運営状況、行事予定、外部評価等である。メンバーからの発言も多く、ホームへの提言、助言、協力を得てホームの運営に反映させている。議事録はメンバーに配布すると共に、ホーム玄関に置き誰でも閲覧できるようにしている。会議で出された課題については、3グループホーム合同の定例職員会や、ホームのカンファレンス時に全職員で話し合い、サービスに反映するよう努めている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>行政との対応は、運営母体の担当者及びホームから主事等が必要な手続き、相談などを行っている。ボランティアについても指導や協力により受け入れが行えた。また、地域包括支援センター主催の「認知症高齢者を介護する家族への支援事業教室」への協力や、実践者研修受講生の受け入れを行うなど、行政との協力関係をつくり、さらに連携を密にし、サービスの質の向上につなげたいと考えている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホームと家族、入居者のコミュニケーションが大事にされ、良好な関係が持たれている。家族の来訪も多く、その際、入居者の暮らしぶりや健康状態の他、ケース記録やケアプラン、こずかい出納帳を見てもらい確認印を受けている。また、毎月ホーム新聞「たより」を発行し、入居者が行事を楽しんでいる様子を写真で伝えている。入居者の健康状態も体調に変化がみられた時は、その都度電話連絡をして、家族の思いに配慮している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族がホームを訪れた際は、施設長、副施設長、ユニットリーダーのいずれかが対応し、入居者及び家族からの要望、思い、相談を受けるようにしている。これを受けてインターホンの位置を変更したり、照明を増設するなど迅速な対応をしている。また、入居者家族アンケートの内容からもホームが家族との関わりを大切にし、意見、要望への対応を重視していることがうかがえる。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ステップアップのための異動はあるが、定期的な異動は行っておらず、職員の定着率は高い。職員の異動や退職した場合は、家族の来訪時や運営推進会議で報告している。入居者には状況を見ながら、ダメージを与えないよう配慮しながら説明している。ユニットリーダーは新入社員が入社すると速やかに入居者に紹介すると共に、これまでと変わらないケアができるよう可能な限り行動を共にし、研修期間を設け入居者に対するダメージの軽減に努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は年間計画が立てられ、定期的実施し職制別に参加している。参加者は毎月の全員参加のカンファレンスで研修内容を説明し、情報を共有している。外部講師を招いての職員研修を、今年度3回予定しており、勤務シフトを調整してパート職員も参加するようにするなど、職員全体のスキルアップに取り組んでいる。また、行政による研修会にも内容により参加しており、今後、職員の経験、能力などを考慮しながら、段階的な研修への参加を増していきたいと考えている。		
11	20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県及び名古屋市グループホーム協議会に加入し、下部組織である地区ブロック会や研修会に出席したり、他事業者と情報交換に努めている。市内にある法人内のグループホームとは定期的に交流会を開き、事例紹介や検討など勉強会を実施して、スキルアップに取り組んでいる。また、施設長が定期的に法人内施設の巡回をするなど、多くの介護現場を見ることにより、より良い介護サービスに役立つよう努めている。今後、職員及び入居者の相互訪問にも取り組みたいと考えている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者、家族と面接、アセスメントを行い、状況に応じ1日デイサービスを実施している。さらにホームの雰囲気徐徐に馴染むため、3泊4日のお試し入居を行い入居の判断をしている。なお、お試し入居は状況によっては延長する場合もあり、本人、家族が安心して、納得した上での入居になるよう配慮している。入院や入所、在宅の利用者には、ホームから施設長、副施設長、ユニットリーダーのうち2名が訪問し面接をして、本人、家族の意向、要望などを聞き入居の日が初顔合わせにならないよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者の趣味や得意な事を理解しており、本人が持っている能力を引き出したり、残存能力の維持に努めている。手作りの編み物や、職員の好きな言葉を色紙に書いてプレゼントすることを励みにしている入居者もあり、職員からのお礼の言葉が楽しみになっている。また、年長者でもある入居者から、昔からの習慣や言葉遣いを教えてもらったり、同年輩の親のこと等を相談する職員もいて、共に支え合う関係づくりに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前のアセスメントで家族にセンター方式のシートを記入してもらい、本人の情報を入手している。入居者には、職員の中で担当を決めモニタリングを行い、入居者の思いや希望を把握している。また、意思表示の困難な入居者については、顔の表情、態度など日々の様子から把握するよう努めている。これらの状況をカンファレンスシートにまとめ、毎月のカンファレンスで話し合い、本人本位のケアになるよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者担当職員が、毎日の気づきをカンファレンスシートに記入をし、カンファレンスで話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。作成後、計画書を見ながら職員と共にモニタリングを行い、現状に即した介護計画になっているのかを確認している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的に3カ月、6カ月で短期、長期目標の見直しを行っている。入居者の状態に変化が無いが、個々の日課計画表を作成しており、入居者の現状の把握に努めている。状態に変化がみられた場合は、時間を空けずに話し合いがされ、必要に応じて見直しがされる。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居者、家族が安心した暮らしが続けられるよう通院介助、外出、外食、外泊などの希望を聞き、柔軟な支援がされている。また、退居後も退去先を訪問し現状の把握に努めている。地域の方に認知症を正しく知ってもらうために、地域に開かれたホームを目指している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>基本的には、入居時に入居者、家族同意のもと、協力機関の医師がかかりつけ医としている。希望により協力医療機関以外への通院も対応している。週に1回の往診があり、看護師も訪問看護ステーションと契約しており、24時間対応可能となっている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>3か月かけ話し合い、重度化に係る指針が作成された。主治医、看護師の協力を得て、深夜の看取りを経験したこともある。少しずつ「できること」が増えつつあり、今後も入居者、家族の希望に添うよう話し合い、医師、看護師の協力のもと、可能な限り受け止めるようしている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員の入社時にプライバシーの保護、個人情報漏洩防止について説明し、契約書を交わし徹底を図っている。日々の生活の中で、職員はさりげない声かけで、本人の誇りを損なうことのないよう配慮している。入居者の記録の記載は、事務所、台所で見守りをしながら記載しており、記名はアルファベットで記載している。書類の保管は、倉庫内に収納し、鍵は事務所で管理し情報漏洩の防止に取り組んでいる。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員の都合によるスケジュールを押しつけることなく、入居者一人ひとりの生活リズムを大切にしている。起床や食事などの時間も無理強いすることなく、本人のペースに任せている。ホームの掃除や片付けについても、作業時間を変更する等の対応をして、希望に添った支援をしている。また、入居者とは寄り添うことを大切に、ゆっくりと会話を楽しめるよう努めている。晩酌を楽しむ入居者もいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、入居者と職員が一緒に行っている。献立は管理栄養士が立てたものを使用しているが、火曜日は自由メニューになっており、入居者の希望を聞き、外食や旬の食材を取り入れた食事にしたり、お弁当を作り出かけることもある。また、入居者の状態に合わせ調理の方法、盛り合わせなど工夫がされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居当初は自宅の習慣を大切に、夕方などに入浴できるように個人の希望に添い支援をしている。入浴を拒否される方には、先に洗面所で髪を洗ってもらったり、入浴用ののれんを下げたり、入浴剤を使用するなど工夫をしている。基本的には入浴は週3回であるが、希望者は毎日入浴が可能となっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴を家族から詳しく聞き取り、その人にとって何ができるかを把握し、日々の生活の中で楽しみや、役割を持っていただくことで、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望により、毎日散歩の支援をしている。お茶とお菓子を持って、1時間半くらいウォーキングをする方もいる。夏季は時間を変更して、早朝にしたり冬季は駐車場で日向ぼっこしたり、天気の良い日には外でお茶をすることもある。買い物などは、本人の希望により個人対応の支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間を除き、鍵をかけないようにしている。玄関には、人感センサーやチャイムが設置されているが、その場では鳴らず、台所で光と音で知らせよう配慮されている。居間にある洗面台の壁に大きな鏡があり、台所から入居者の様子が見えるようになっている。職員は目配り、気配りを心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回避難訓練を実施しており、入居者も参加して夜間を想定した火災訓練を実施している。食料や防災用品は備蓄されており、保管場所は職員全員に周知されている。近隣の住民には、民生委員や町内会長を通じて参加の呼びかけをお願いしているが、参加までには至っていない。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士が1日1,400キロカロリーを目安に献立を作成している。水分は1日1,000cc以上摂るように心がけている。夜間は居室にお茶を用意している。便秘対策として適度な運動に加え、果物やヨーグルトなどの乳製品を取り入れている。体重測定は月1回行われ、増減が無いが常に心がけている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>建物の周囲には、法人内の緑化サービス部門の協力を得て、四季の花が楽しめるよう木々を植えたり、また、職員が草花を鉢植えやプランターなどで育てている。廊下や居間には、入居者と職員手作りの作品が掲示されている。また、行事や旅行の写真が額に入れられ飾られている。超音波の加湿器を2台設置し、良好な環境で過ごせるよう配慮がされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室入り口には、入居者の希望に応じ、名前や写真、自分で作った作品等を飾り、特徴をつくり入居者にとって良い目印となっている。居室には、それぞれ自宅で使い慣れたテレビ、タンス、椅子など生活用品が持ち込まれている。手作りの作品や写真などを飾り、本人のプライベート空間として、安心して過ごせる居室づくりがされている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。